

第8回江南市協働のまちづくり推進協議会 会議要旨

会議名：第8回江南市協働のまちづくり推進協議会

開催日時：令和8年5月20日（水）午後3時30分から午後5時まで

場所：江南市役所 3階 第3委員会室

委員：出席委員6名

佐藤 正之（学識経験者）

竹内 秀己（江南商工会議所）

伊藤 光洋（江南市社会福祉協議会）

坂口 悦子（市民活動団体関係者）

佐野 宴（市民活動団体関係者）

中村 健一（市民活動団体関係者）

事務局：平松 幸夫（企画部長）

大池 慎治（企画課長）

武馬 拓也（企画課 政策・協働グループ）

江南市地域交流センター運営等業務受託者出席者1名

資料1-1 江南市地域まちづくり補助事業について

資料1-2 令和8年度江南市地域まちづくり補助事業採択事業一覧

資料2 江南市地域交流センター令和7年度総括

資料3 KPI（重要業績評価指標）報告書

資料4 協議会の今後の運営について

議題	(1) 江南市地域まちづくり補助事業について (2) 江南市地域交流センターの運営状況について (3) 協議会の今後の運営について
----	---

会長挨拶

議題

(1) 江南市地域まちづくり補助金について

○事務局から、「令和8年度江南市地域まちづくり補助事業」の採択事業、「令和9年度江南市地域まちづくり補助事業」の今後のスケジュールについての説明がありました。

会長	令和9年度江南市地域まちづくり補助事業は昨年度と同様となるか。
事務局	昨年度と同様に、「ひろげよう！展開コース」と「つながろう！連携コース」で募集する。スケジュールについても昨年度と同様となる予定。予算については財政部局との調整となるが、同程度の規模で予定している。
委員	応募件数の目標値は掲げているか。
事務局	目標値は定めていない。予算の枠組みはあるが、なるべく多くの団体に応募いただきたいと考えている。

(2) 江南市地域交流センターの運営状況について

○事務局から、令和7年度の地域交流センターの利用実績、実施事業及びKPI（重要業績評価指標）についての説明がありました。

委員	KPI①の地域交流センターの利用者数について、令和7年度において7月と2月の人数が突出している理由を伺いたい。KPI③の地域コミュニティの団体数の減少は、地域の実情による解散等でありコントロールすることができない。一方で、NPO・ボランティア団体数は現状維持ができており、江南市による支援が形になっていると評価できる。
事務局	令和7年度の7月と2月は選挙があり、地域交流センターの会議室が期日前投票の会場となっているため大幅に増加している。地域コミュニティ団体数について、NPO・ボランティア団体数は基準となっている令和3年度から増加しているが、交通安全パトロールや老人クラブは減少する結果となっている。今後もコミュニティ活動の活性化を図っていく。
委員	KPIはどうしても数値での評価となってしまいが、地域によって活発に活動している団体もある。質を評価し、可視化していくことができると良い。
事務局	地域交流センターでのイベント等による発表の場を通し、可視化する取組みを進めていきたい。
委員	ひと・コトこうなんマルシェにおいて、平和堂江南店での出張開催とあるが、気軽に買い物に来た方を対象としているのか。詳細についてご説明をお願いしたい。
事務局	用意していただいたスペースが2階の奥だったため、来店客に気軽に来ていただけるよう1階で声掛けを行った。出展団体はエコすくの他に子育てや人形劇、不登校支援等の様々なジャンルの団体に声掛けして発表していただいた。平和堂江南店に参加者へのお土産を依頼したところ、快く引き受けてくださり、サイコロを振って景品がもらえる取組みも行った。想定を超える参加者があり、今後も継続することを予定している。好評だったこともあり、エコすく単独での出展も予定されている。
委員	市役所全体として事業見直しを進めていると聞くが、今後どのように地域交流センターを運営していくのか伺いたい。
事務局	市の厳しい財政状況もあり、地域交流センターの委託料も減額している。4月以降、窓口受付時間の縮小や事業の見直しを行っているが、

	市民活動団体や自治会等の支援に変わりはない。イベントの回数が減ることは考えられるが、持続可能な形で継続していきたい。
委員	令和7年度総括において、スタッフは仕様書以上の人員を配置して業務にあたったとあるが、今後2年間の運営はどうか。
事務局	受付時間を午後5時までに変更したが、会議室の可動間仕切りの関係で午後5時以降も1人では対応困難なケースもある。委託料は半分程度になったが、外部に支払う費用を削減できれば、内部の運営は何とかかなる状況。江南市への気持ちもあるため、金額に見合う形でやることをやっていきたいと考えている。
委員	これまでの3年間の振り返りで協議会が終わることになってしまうが、委託料も減額となり、これまで通りの運営は難しいと思う。事務局には今後についてもよく検討していただきたい。
事務局	現状は委託としているが、令和10年度以降は指定管理とすることも検討している。現在委託している株式会社船井アソシエイツとも相談しながら、今後の方向性を決めていきたい。
委員	委託と指定管理の違いは何か。
事務局	委託は事業内容を固めて依頼する形となる。指定管理は基本的に施設の維持管理と運営を行っていただく形。運営については最低限の条件のみ示し、自由度を持たせることができる。
事務局	指定管理の場合の大きな違いは、行政では難しい稼働運営が可能となる。委託では困難なお金が絡む案件も指定管理では柔軟に検討できる。
委員	市として最初の3年間はお試しで委託としたのか。また、令和8年度からの2年間を再度委託とした理由について伺いたい。
事務局	布袋駅東の複合施設は民間と一緒に建設しており、施設管理は現在別の民間事業者が行っている。施設の一部の運営となると、基本的には委託となるが、現在の図書館は指定管理であり、地域交流センターも検討の余地はある。令和8年度からの2年間も検討していたが、方針を決めるに至らなかった。
会長	予算が減るとKPIの達成は厳しくなると考えられるが、変更について検討しているか。
事務局	現在のところ検討していない。
会長	今後も数字がずっと上がっていくとは考えられない。開館時間が短くなった影響や、期日前投票で全体評価が分からなくなることもあるため、数字を切り分けて評価することも検討する必要がある。指定管理となった場合には自由度も出てくることになるが、江南市としていつまでに検討をするのか。

事務局	開館時間は変更となっていないが、窓口受付時間は午後 5 時までとしている。ご意見のあったように、期日前投票等を切り分けるといった必要性を整理しつつも、K P I 自体については現状のままで検討している。
会長	K P I のみでは評価できない部分が重要ではないかと考えている。地域コミュニティの団体数の減少に代替して評価する仕組みづくり、活動の内容を評価できるような手法を検討すると良い。
事務局	団体数等は行政として指標の一つとして出している。質的な部分の評価も必要と感じているが、手法が難しいところでもある。

(3) 協議会の今後の運営について

○事務局から、これまでの協議会の取組成果、今後の運営方針についての説明がありました。

委員	9月の任期までに会議開催の予定はあるか。
事務局	1回開催するかどうかであり、今回が最後となる可能性もある。
委員	協議会が現在の任期をもって終了することについて、江南市全体の事業見直しの方針が影響しているか。また、補助金の審査委員が一本釣りとなると思うが、その方を選んだ理由は担保されるのか。
事務局	市全体の事業見直しとの関係はない。類似した会議体を適宜整理していくこともあり、SDGsの協議会において、まちづくりを協議することも考えられる。県において、市民活動という言葉は最近使われておらず、企業や大学等を巻き込んだ社会活動としての考え方になってきている。そういった点ではSDGsが似た考え方になると思うが、協働の精神は引き継ぎながら事業を進めていきたい。補助金の審査委員については学識経験者や市民活動団体等で考えていたが、いただいたご意見を踏まえ検討していく。
委員	社会活動の概念は良いと思う。市民活動は人やお金の面で限界がある。行政や企業とつながって活動する方向へシフトし、その関連で会議体があるといい。江南市にとっての会議体の受け皿がSDGsならそれも理解できる。その会議体に市民会議委員が参加したり、その会議体から補助金の審査委員を選ぶことも考えていただきたい。
委員	一定の成果を挙げたとあるが、どのような成果に対してどのような感想を持っているのか。事務局の個人的な見解を伺いたい。
事務局	公募市民の方や市民活動団体の実務に携わっている方からお話を伺うことで、地域交流センターとしての成果が出ているため、非常に有意義な協議会だったと考えている。株式会社船井アソシエイツに3年間頑張ってもらったこともあり、現在軌道に乗ってきたと考えている。地域交流センターの認知度も高まったと思う。
委員	自分自身、平成17年から協働に関する委員をしており、西分庁舎の協働ステーションから携わっている。社会福祉協議会としてボランティア等も行っているが、中間支援組織が育たず活性化ができていない部分もあると感じている。国の政策も変わってきている中、SDGsでいろんな企業が参画するようになったのは良かった。本協議会がなくなることになるが、まちづくり全体について協議できる場が継続して必要である。本協議会が今後どのようにつながっていくのか、市の見

	<p>解を伺いたい。また、地域交流センターの第三者からの評価を今後どうするか、何らかの形で公表するのか、大きい会議体の中で評価を行うのか等検討いただきたい。社会福祉協議会では重層的支援体制整備事業という支援の仕組みの中にまちづくりがある。今後、企業と連携し、住民参加、官民連携として福祉分野からもまちづくりに関わり、ウイステリアプラザとも連携できればと考えている。企業との連携は、本社都合や利益関係で方向性をまとめるのに苦労することもあるが、今後は企業がキーワードになってくると思う。</p>
委員	<p>社会福祉協議会とセンター等の協議体があるのであれば、そこが広がり機能していくと良い。</p>
委員	<p>社会福祉協議会は市民活動団体との交流が薄いので、そこを地域交流センターとも協力しながらやっていきたい。</p>
事務局	<p>まちづくり全体を議論する場として、今年度と来年度で市の最上位計画である総合計画を策定する。市民会議も設置し、現在委員も公募している。この2年間はここでまちづくりについて議論し、その後については、企業を含めた形で議論できると良いと考えている。地域交流センターの第三者評価について、指定管理になった場合は評価をするための会議体を新たに設置することになる。委託の場合は通常評価する会議体がないため、施設の稼働率等を決算で報告していくことになる。</p>

第8回江南市協働のまちづくり推進協議会次第

と き 令和8年5月20日（水）
午後3時30分から午後5時まで
ところ 江南市役所 3階 第3委員会室

1. 会長あいさつ

2. 議題

(1) 江南市地域まちづくり補助事業について

(2) 江南市地域交流センターの運営状況について

・江南市地域交流センター令和7年度総括

・KPI（重要業績評価指標）報告

(3) 協議会の今後の運営について

○その他

机上配布資料について

配布資料

- 資料1-1 江南市地域まちづくり補助事業について
- 資料1-2 令和8年度江南市地域まちづくり補助事業採択事業一覧
- 資料2 江南市地域交流センター令和7年度総括
- 資料3 KPI（重要業績評価指標）報告書
- 資料4 協議会の今後の運営について

江南市地域まちづくり補助事業について

1 令和 8 年度地域まちづくり補助事業採択事業について

「資料 1 - 2」参照

2 令和 9 年度地域まちづくり補助事業の予定について

応募説明会：令和 8 年 9 月中に開催予定（地域交流センター）

応募相談会：令和 8 年 10 月 2 日（金）から 11 月 13 日（金）まで
10:00～16:00（要予約） ※木曜は休館日の為除く

募集期間：令和 8 年 10 月 2 日（金）から 11 月 13 日（金）まで
※相談会への参加が必要

募集コース：ひろげよう！展開コース（上限 10 万円、80%）
つながろう！連携コース（上限 20 万円、90%）

募集後のスケジュール

令和 8 年 11 月下旬	書面精査（事務局）
12 月中旬	申請内容の確認（審査員）
令和 9 年 1 月上旬	公開審査会（団体ヒアリング）※ 1 団体あたり 10 分程度
令和 9 年 4 月 1 日	交付決定

令和 8 年度 江南市地域まちづくり補助事業 採択事業一覧



江南市は、地域で活動する団体などが工夫を凝らして取り組む、地域がつながり地域を良くしていこうとする事業に対して補助金を交付しています。

令和 8 年度実施事業として採択された「地域まちづくり補助事業」を紹介します。

事業名	実施団体	団体からの事業紹介
広げよう防災意識と市民の輪 ～防災無線網構築に向けて～	ふじのはなアマチュア無線クラブ (ひろげよう！展開コース)	小中学生向けに「防災グッズの作成～電子工作教室」を開催します。教室では、アマチュア無線を使った無線通信も体験できます。災害時に役立つアマチュア無線について学び、防災への関心を深めることを目的に、年間 3 回の開催を予定しています。
ママのためのリラクゼーションタイム	まちづくり木曾川「ママとキッズとパパ」の会 (ひろげよう！展開コース)	子育てを頑張っているママのために、同じ建物内で保育士に子どもを預かってもらえる安心感のもと、すいとびあ江南の大浴場や食堂、宿泊施設としての機能を利用することにより、ストレスを緩和して自分を癒す時間を過ごしてもらえるリラクゼーションタイムを提供します。心も体もリフレッシュして幸せな気分で子育てができることを願っています。
遊休地水田での栽培時無農薬化学肥料不使用コメ作り体験を通じての地域活性化	今市場公会堂推進委員会 (ひろげよう！展開コース)	遊休地水田を有効活用し、有機米の手作りコメ作り体験を通じて子どもたちに「食」と「命」の大切さを体験していただきます。五感を通じた自然体験により「生きる力」の育成と地域の人達との交流で社会性や信頼性を学ぶ機会になる活動です。
みんなで祝おう！森のおたんじょうび会	特定非営利活動法人おさんぼや (ひろげよう！展開コース)	フラワーパーク江南の新エリア「ふるさと森」で、地域のこどもたちの誕生日をみんなで祝い、同じ地域で子育てをする参加者同士が交流できる「安心安全な居場所」を作っていきます。たくさん緑にあふれ、街中とは違い大きな木々に囲まれた静かな「ふるさと森」を、世代を超えた地域の憩いの場所として活用します。
ノルマル 17 歳ーわたしたちは ADHDー上映会と参加者交流会	・ジャスミンの会 ・ホントモ江南 (つながろう！連携コース)	不登校の子供たちの中には神経発達症（発達障害）の特性により生きづらさを抱える子ども少なくありません。本事業では映画『ノルマル 17 歳。ーわたしたちは ADHDー』を通じ理解を深め、交流会を実施します。参加者が支援者の会「ジャスミンの会」と繋がり、江南市およびその近隣地域で親子が孤立しにくい支援体制の構築を目指します。

令和 8 年 5 月 20 日
江南市地域交流センター

江南市地域交流センター令和 7 年度総括
～本事業の骨子をふまえ～

1. 本事業の骨子：江南市地域交流センター発「全世代・全員活躍のまち」推進事業

2. 本センターの目的：

江南市地域交流センター（以下「地域交流センター」という。）は、年齢や性別、国籍、障害の有無にかかわらず、すべての人が様々な活動や交流を通じて、生涯にわたって活躍できるよう、多様な主体が集い、対話し、行動する地域協働の拠点として、地域資源の集約と発信、地域課題の解決に向けた自主的かつ自発的な行動の促進、新たな活動を創出できる環境づくりに取り組むことが目的です。

開館 3 年目となる令和 7 年度は、さらなる市民活動団体支援、区・町内会支援についての事業の充実をはかりました。

3. 業務内容について

地域交流センター運営等業務

会議室利用の平均稼働率 68.6%、最高稼働率 84.2% と高い数値となり、令和 6 年度の平均稼働率 66.0%、最高稼働率 75.2% を大幅に上回りました。その結果、スタッフは仕様書以上の人員を配置して業務にあたりました。

価格面の安さや交通アクセスの利便性も合わせ、初年度より多くの団体に継続してご利用いただいています。また、積極的にコミュニケーションを図り、良好な関係性を築いています。

作業コーナー利用件数は令和 6 年度 850 件、令和 7 年度 850 件と同数でした。

各種情報収集・提供業務

令和 7 年 4 月から令和 8 年 3 月までに市民活動団体は 7 団体増加し、各団体の情報提供や収集に努めました。

● toko+toko News Letter（年 4 回発行）

引き続き取材から作成、発行、市民活動団体への送付まで一貫して引き続き地域交流センターのスタッフがを行い、各団体とのコミュニケーションや情報収集を図りました。

● ひと・コトこうなんマルシェ

また、団体の活動状況・団体主催イベントの広報等を行う「ひと・コトこうなんマルシェ」の開催を行い（年 4 回）、チラシ配架や掲示による市民活動団体の活動内容紹介のほか、ワークショップの開催により団体と市民の交流の機会を創出しました。

研修業務

<彩色まちづくりゼミナール等の開催（年2回以上）>

●彩色まちづくりゼミナール

第1回目（5月25日開催）は「まちづくりの魅力を知っている人から話を聞きますか？」をテーマに、2部構成で開催しました。（延べ63名参加）

第2回目（6月28日開催）は「自治会・町内会のための運営お役立ちセミナー」として、自治会・町内会の現状と課題、運営の基礎知識について学べるセミナーを2部構成で開催しました。（36名参加）

第3回目（2月28日開催）は「夢の叶え方」をテーマに、講師の夢を実現させるまでの努力、地元「江南市」への想いや今後の挑戦についての講演会を開催しました。（42名参加）

<コミュニティ人材の育成（随時）>

●まちづくりLabo57

第3期として学生を中心に江南について議論し、プレゼン能力等を磨く「まちづくりLabo57」を開催（7月9日事前説明会、9月26日・10月24日・11月28日・12月26日・1月23日・2月27日開催、3月14日発表）しました。（17名参加）

『「住み続けたいまち」とはどのような町か』をテーマに話し合い仮説を立て、検証のため市役所インタビューでの市の取組の聞き取りやtoko+toko=labo内での市民ヒアリングを実施しました。その成果発表を地域まちづくりフォーラムにて行いました。

●デジタル活用相談会

デジタルを活用した区・町内会のお困りごと相談会を開催（4月1日～3月31日）し、自治会の課題となっていることとは何かをヒアリングを行いました。2団体、計3件の相談がありました。

交流業務

地域交流センターが多世代・多様な人々の交流の場となるために、誰もが訪れたいくなるような幅広い分野にわたる企画を立案し、新たな交流の機会を提供しました。

また、各種活動の持続・活性化を図るため、活動者同士の新たなネットワークが生まれる場となるように情報交換や交流を促進しました。

さらに、幅広い世代が集うコミュニティの活動の場となるために、地域のふれあいの場として親しまれる施設となるような企画を立案し、実施しました。

●ひと・コトこうなんマルシェ

市民活動団体の活動内容や、団体主催イベントの周知、広報として「ひと・コトこうなんマルシェ」を4回開催しました（8月10日、11月21日、1月31日、3月14日）。引き続き江南市の社会福祉協議会（8月）、保健センター、図書館（3月）との連携として開催し、内容の充実を図りました。また、初の外部（SDGsパートナーである株式会社平和堂江南店）での出張開催を行い、地域交流センターに足を運ぶ機会の少ない市民の方へも市民

活動団体の取組や地域交流センターの存在を周知する機会を設けました。

●コミュニティカフェ

団体間、自治会間を繋げ、相互の課題共有、解決を目的とした「コミュニティカフェ」を、それぞれ区・町内会、市民活動団体、一般市民を対象として4回開催（8月23日、10月24日、2月16日、2月28日）しました。

<地域まちづくりフォーラムの実施（年1回）>

●地域まちづくりフォーラム

江南市地域まちづくり補助事業の採択団体による事業報告会を通じて、事業の成果と課題を共有し、参加者同士の交流を図りながら、市民活動やボランティア活動の発展を促す場とするとともに、新たに参加する市民等を増やすきっかけづくりとなる事業を企画し、運営を実施しました。

司会に元東海テレビアナウンサー 勅使河原由佳子氏を招聘し、第1部では補助事業実施団体（プレゼン形式3団体、掲示形式3団体）の成果発表会、第2部ではまちづくりLabo57の成果発表、第3部では『地域の魅力を“伝わるカタチ”にする広報術～今日からできる！共感を生む発信のポイント～』として株式会社Wo-one代表 犬飼奈津子氏による講演を行いました。

江南市地域まちづくり補助金制度運営支援及び補助団体支援業務

<地域まちづくり補助事業>

●地域まちづくり補助事業

市と連携して、江南市地域まちづくり補助金制度運営支援及び補助団体支援業務として、応募説明会（9月13日・9月19日）を開催し、地域交流センター窓口にて随時（10月1日～11月12日）相談を受けました。

チラシの作成、地域交流センターホームページやSNS等での周知・PRを行い、8団体、延べ9件の相談を受付、8団体の応募につながりました。

また、補助金交付団体への活動支援として、情報紙への積極的な掲載、イベント案内の広報協力等に努めました。

ロッカー等貸出業務

ロッカーの管理の他、会議室や作業コーナーを頻繁に利用される団体へ積極的に利用を促しました。ロッカーは12個のうち8団体の利用がありました。

布袋駅東駅前広場について

令和7年度の利用件数は令和6年度より12件増加し、57件の利用がありました。

火曜日の利用も可能となり、休館日を除くすべての日程での使用が可能となりました。

駅前広場利用を促すチラシを作成し配架、地域交流センターホームページやSNSへ掲載し、広報を行いました。

その他

- ・団体からの登録内容の変更等を記録し、都度更新を行いました。
- ・地域交流センターの利用状況は、毎月月報にてご報告いたしました。
- ・地域交流センターパンフレット、会議室利用案内やSNS案内等の他、催事毎にチラシを作成しました。
- ・市と連携し、審議会への出席や事業への協力、その他事業目的に資する業務を行いました。
- ・事業を行う際は都度市へ確認し、必要に応じて業務を行いました。

以上

**令和 7 年度
江南市地域交流センター発「全世代・全員活躍のまち」推進事業
KPI（重要業績評価指標） 報告書**

1. 事業名：江南市地域交流センター発「全世代・全員活躍のまち」推進事業

2. 事業の目的：

市民活動団体をはじめ、地縁団体、民間等事業者、教育機関など多様な主体の交流拠点として、「江南市地域交流センター」（以下、地域交流センターという）を設け、この地域交流センターを拠点として、民間等事業者による市民活動支援、地域人材の育成、交流及び賑わいの機会づくりなど各種事業を一体的に展開することで、江南市における関係人口の拡大や地域コミュニティの維持などを目指すものである。

本事業の実施により、人口減少に直面している状況下でも、まちづくりに関わる主体を増やし、育成することで、地域の担い手不足の課題解決に貢献すること、また、世代や主体を問わず関わり、賑わう機会を創出し、市の魅力向上及び地域住民の市への愛着の向上へ結び付けることをねらいとし、将来的に、市民が生涯にわたり安心して住み続け、活躍できる持続可能なまちづくりを目指していく。

3. KPI（重要業績評価指標）

- ① 江南市地域交流センターの利用者数
- ② 当該事業により実施したイベント等行事の参加者数
- ③ 地域コミュニティの団体数
- ④ 市が市民活動団体（NPO、地縁団体等）、民間等団体及び教育機関と連携して実施する事業の数

① 江南市地域交流センターの利用者数

・ 地域交流センターを交流の場として活用することを促進するために、市民活動等支援業務及び地域人材の育成業務によって各主体の活動意欲を高め、交流機会の創出業務により地域交流センターに集う動機を誘発し、また、情報の収集発信業務によりPRを実施した全体の結果として生まれる指標。

- ・ 目標値：12,500人 ・ 実績値：28,660人（達成率229%）
- ・ 月別の平均利用者数 約2,388人

（参考：令和6年度）

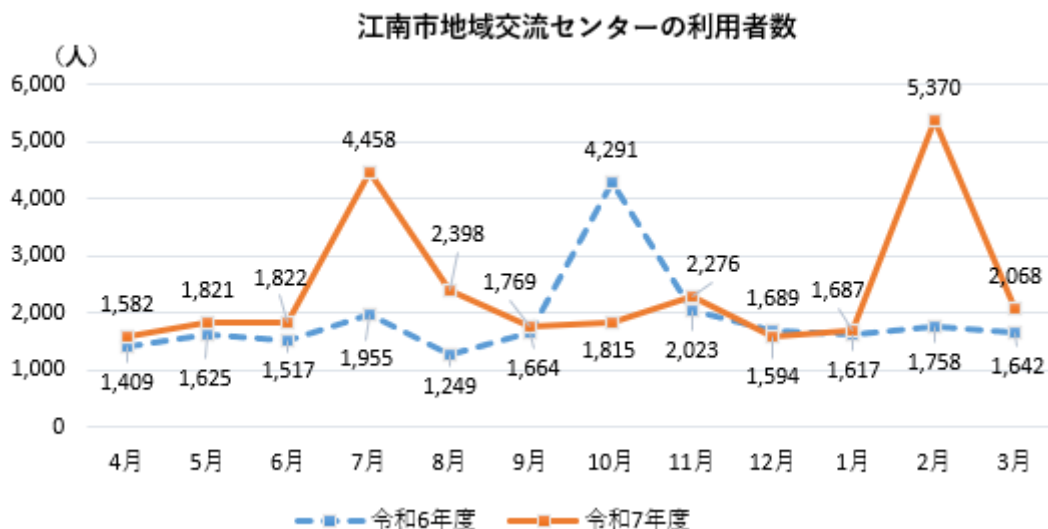
- ・ 目標値：10,000人 ・ 実績値：22,439人（達成率224%）

- 令和7年度の地域交流センター利用者数については、目標値12,500人に対し、実績値28,660人で目標値を大きく上回った。また、令和6年度から6,200人程度増加した。

・江南市地域交流センターの利用者数

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R6	1,409	1,625	1,517	1,955	1,249	1,664	4,291	2,023	1,689	1,617	1,758	1,642	22,439
R7	1,582	1,821	1,822	4,458	2,398	1,769	1,815	2,276	1,594	1,687	5,370	2,068	28,660



② 当該事業により実施したイベント等行事の参加者数

- 江南市における関係人口の拡大や、市民活動への関心を高めるために当該事業で実施する、交流機会の創出や、地域人財の育成に参加した者の数を把握する指標。

- ・目標値：1,344人 ・実績値：1,532人（達成率114%）
- ・月別の平均参加者数 約128人

(参考：令和6年度)

- ・目標値：756人 ・実績値：1,247人（達成率165%）
- ・月別の平均参加者数 約104人

- 令和7年度の地域交流センターで実施したイベント等の参加者数については、目標値1,344人に対し、実績値1,532人で目標値を上回った。また、令和6年度から300人程度増加した。

・当該事業により実施したイベント等行事の参加者数

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R6	31	134	24	57	180	16	47	185	43	67	80	383	1,247
R7	27	243	66	40	288	62	64	30	32	281	106	293	1,532

・主なイベント

イベント名称	内容	参加者数
スマホ・パソコン初心者相談会 (毎月第1から第4水曜日)	ボランティアグループの協力による、初心者を対象としたスマートフォン、パソコン操作に関する相談会	332人
彩色まちづくりゼミナール (令和7年度3回開催)	NPO・ボランティア活動をしている方、これから始めてみたいと考えている方及び少しでも関心のある方向けの講演会	141人
ひと・コトこうなんマルシェ (令和7年度4回開催)	市民活動団体の活動内容の掲示やワークショップ	654人

③ 地域コミュニティの団体数

・地域の担い手不足や新たに活動を始めようとする団体のスタートアップ支援として実施する、市民活動等支援業務により増加に結びつけようとするものであり、団体数を把握する指標。

- ・目標値：令和3年度を基準として、令和5年度以降、毎年5団体の増加
⇒ 479団体（令和3年度464団体+15団体）
- ・実績値：458団体（達成率0%）

（参考：令和6年度）

- ・目標値：令和3年度を基準として、令和5年度以降、毎年5団体の増加
⇒ 474団体（令和3年度464団体+10団体）
- ・実績値：469団体（達成率50%）

- 令和7年度の地域コミュニティの団体数は、老人クラブや交通安全パトロールの減少が影響し、目標値を達成することができなかった。
高齢化に伴う地域コミュニティの減少に対して、地域交流センターにおいては、引き続き市民活動団体の活動支援を行うとともに他のコミュニティとの交流機会などを設け、コミュニティの活性化を図っていく。

・地域コミュニティの団体数

区分	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	増減 (R7-R3)
区・町内会	133	133	135	135	136	3
NPO・ボランティア団体	144	141	173	181	179	35
消防団	5	5	5	5	5	0
P T A	15	15	15	15	15	0
交通安全パトロール	72	71	66	66	60	△12
老人クラブ	59	43	40	34	33	△26
子ども会	36	37	34	33	30	△6
合計	464	445	468	469	458	△6
増減（前年度比）	△7	△19	23	1	△11	

④ 市が市民活動団体（NPO、地縁団体等）、民間等団体及び教育機関と連携して実施する事業の数

- ・ これまでの行政と市民との協働から本事業により発展させた多様な主体とのマッチングや交流機会の創出による効果を計測するために、各主体とタイアップして実施した事業数を毎年度把握する指標。

- ・ 目標値：毎年5件の増加 ⇒ 84事業（令和6年度79事業）
- ・ 実績値：令和7年度5事業の増加 ⇒ 84事業
- ・ 達成率：100%

（参考：令和6年度）

- ・ 目標値：毎年5件の増加 ⇒ 79事業（令和5年度74事業＋5事業）
- ・ 実績値：令和6年度5事業の増加 ⇒ 79事業
- ・ 達成率：100%

○ 令和7年度の市が市民活動団体（NPO、地縁団体等）、民間等団体及び教育機関と連携して実施する事業の数については、前年度からの増加数の目標値5件に対し、実績値5件で目標値を達成した。令和7年度は、江南市SDGs官民共創プラットフォームが本格稼働したことも、目標値の達成に寄与している。

令和8年度も引き続き、官民連携による取り組みを促進していく。

・ 新規連携事業（※抜粋）

課名	事業名	事業概要	協働の相手先
子育て支援課	子育て世帯訪問支援事業	虐待リスク等の高まりを未然に防ぐことを目的とし、家事・子育て等に対して不安や負担を抱える家庭を支援することで養育環境を整えた。	NPO在宅子育て支援ちゅーりっぷ
企画課 (委託先：(株)船井アシエイツ)	こうなん未来ラボ（県民の日学校ホリデー）	江南市SDGsパートナー団体による子ども向けのSDGsワークショップを開催した。	江南市SDGsパートナー（企業、市民活動団体等）
企画課	産学官の協働による地域活性化の取組（ふるさと納税返礼品PR）	ふるさと納税の寄附額を伸ばしたいという相談内容を教材とし、民間事業者が提供する仕組みを活用しながらマーケティングや効果的なPR方法を学ぶ取組を行った。	古知野高校 東邦ガス

協議会の今後の運営について

・現行の委員任期

令和5年9月21日から令和8年9月20日まで
(今回を含め8回の協議会を開催)

・協議会の目的及び所掌事務と対応する取り組み

(協議会の設置目的)

市民の自主的、自発的な市民活動を推進し、市民及び地域の多様な主体との協働によるまちづくりを全市的かつ総合的に進める(要綱より抜粋)

(協議会の所掌事務)

- (1) 協働のまちづくりに係る事業の調整等に関すること。
- (2) 市民活動団体等のネットワークの構築に関すること。
- (3) 市民活動推進施策の調査、研究、提言に関すること。
- (4) 市民協働及び市民活動に係る公募型補助事業の審査・評価等に関すること。
- (5) 協働の拡大に向けての提言等に関すること。
- (6) 江南市地域交流センターの管理運営についての協議に関すること。
- (7) 前各号に掲げるもののほか、協働のまちづくりの推進に関すること。

(協議内容に基づく取組成果)

- ・地域まちづくり補助事業について、申請書類をより分かりやすく、可能な限り簡素な内容に見直し、応募数の増加を図った。また、事前説明会及び相談会を実施し、申請時の団体支援を行った。
- ・地域交流センター実施事業について、委員の意見を踏まえ、駅前広場でのイベントと時期を合わせる工夫により、参加者の増加を図った。
- ・地域交流センターについて、複数年度にわたり数値目標を設定し、その達成に向けた事業を計画及び実施することで一定の成果を挙げることができた。

・次期運営について(案)

- ▶ 所期の目的を概ね達成したことから常設の会議体の設置は行わない。
(地域まちづくり補助事業の審査は引き続き委嘱を予定)